

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第1部門第2区分  
 【発行日】平成19年2月8日(2007.2.8)

【公開番号】特開2000-107387(P2000-107387A)  
 【公開日】平成12年4月18日(2000.4.18)  
 【出願番号】特願平10-287115  
 【国際特許分類】

**A 6 3 F 7/02 (2006.01)**

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0  
 A 6 3 F 7/02 3 3 3 Z  
 A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】  
 【提出日】平成18年12月20日(2006.12.20)  
 【手続補正1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】特許請求の範囲  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の表示領域において複数の識別情報を可変表示可能な可変表示部が設けられ、該可変表示部の識別情報の可変表示結果の組み合わせがあらかじめ定められた特定の表示結果となったときに、遊技者に有利な特定遊技状態に移行可能な遊技機であって、

所定の数値範囲内で特定遊技判定用の数値を更新する特定遊技判定用数値更新手段と、  
所定の数値範囲内でリーチ決定用の数値を更新するリーチ決定用数値更新手段と、

所定の条件が成立すると前記特定遊技判定用の数値を抽出し、抽出した前記特定遊技判定用の数値と前記特定遊技状態に移行させる判定値とを比較して、前記特定遊技状態に移行させるか否かを決定する特定遊技状態決定手段と、

前記特定遊技状態決定手段により前記特定遊技状態に移行させないと決定されたときに、前記リーチ決定用の数値の抽出値にもとづいて、リーチとするか否かを決定するリーチ決定手段と、

前記特定遊技判定用の数値の更新周期と同期しないように初期値用数値を更新する初期値用数値更新手段と、

前記特定遊技判定用の数値と前記リーチ決定用の数値のうち、前記特定遊技判定用の数値が所定回周回すると前記初期値用数値を用いて特定遊技判定用の数値の更新の初期値を変更する初期値変更手段と

を備えたことを特徴とする遊技機。

【請求項2】 特定遊技判定用の数値の更新周期と同期しないように、特定遊技判定用の数値の周回数をきめるための周回用数値を更新し、その周回用数値を用いて周回数を決定する周回数可変手段を備えた

請求項1記載の遊技機。

【請求項3】 定期的な信号にもとづいて定期処理を行うとともに、当該定期処理の終了後、次の定期処理が行われるまでの期間に繰り返し所定の処理を行うものであり、

周回数可変手段は、前記所定の処理で周回用数値の更新を行う

請求項2記載の遊技機。

【請求項4】 定期的な信号にもとづいて定期処理を行うとともに、当該定期処理の終了後、次の定期処理が行われるまでの期間に繰り返し所定の処理を行うものであり、

初期値用数値更新手段は、前記所定の処理で初期値用数値の更新を行う  
請求項 1 ないし請求項 3 記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

【課題を解決するための手段】

本発明による遊技機は、複数の表示領域において複数の識別情報を可変表示可能な可変表示部が設けられ、該可変表示部の識別情報の可変表示結果の組み合わせがあらかじめ定められた特定の表示結果となったときに、遊技者に有利な特定遊技状態に移行可能な遊技機であって、所定の数値範囲内で特定遊技判定用の数値を更新する特定遊技判定用数値更新手段と、所定の数値範囲内でリーチ決定用の数値を更新するリーチ決定用数値更新手段と、所定の条件が成立すると特定遊技判定用の数値を抽出し、抽出した特定遊技判定用の数値と特定遊技状態に移行させる判定値とを比較して、特定遊技状態に移行させるか否かを決定する特定遊技状態決定手段と、特定遊技状態決定手段により特定遊技状態に移行させないと決定されたときに、リーチ決定用の数値の抽出値にもとづいて、リーチとするか否かを決定するリーチ決定手段と、特定遊技判定用の数値の更新周期と同期しないように初期値用数値を更新する初期値用数値更新手段と、特定遊技判定用の数値とリーチ決定用の数値のうち、特定遊技判定用の数値が所定回周回すると初期値用数値を用いて特定遊技判定用の数値の更新の初期値を変更する初期値変更手段とを備えたものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

また、特定遊技判定用の数値の更新周期と同期しないように、特定遊技判定用の数値の周回数をきめるための周回用数値を更新し、その周回用数値を用いて周回数を決定する周回数可変手段をさらに備えていてもよい。

ここで、定期的な信号にもとづいて定期処理を行うとともに、定期処理の終了後、次の定期処理が行われるまでの期間に繰り返し所定の処理を行うものであり、周回数可変手段は、所定の処理で周回用数値の更新を行うように構成されていてもよい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

定期的な信号にもとづいて定期処理を行うとともに、定期処理の終了後、次の定期処理が行われるまでの期間に繰り返し所定の処理を行うものであり、初期値用数値更新手段は、所定の処理で初期値用数値の更新を行うように構成されていてもよい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 4】

【発明の効果】

以上のように、本発明によれば、遊技機を、特定遊技判定用の数値の更新周期と同期しないように初期値用数値を更新する初期値用数値更新手段と、特定遊技判定用の数値が所定回周回すると初期値用数値を用いて特定遊技判定用の数値の更新の初期値を変更する初期値変更手段とを備えた構成にしたので、所定の起動タイミングに同期して遊技制御手段から出力される各種信号を観測しても、特定遊技判定用の数値が判定値と一致するタイミングを推測することはできなくなり、その結果、外部から大当たりを不正に発生させるための信号を与えることができなくなって、不正遊技行為を効果的に防止できる効果がある。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0086

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0086】

定期的な信号にもとづいて定期処理を行うとともに、定期処理の終了後、次の定期処理が行われるまでの期間に繰り返し所定の処理を行うものであり、周回数可変手段が所定の処理で周回用数値の更新を行うように構成されている場合には、特定遊技判定用の数値の更新の初期値が変更されるタイミングのランダム性も向上するので、特定遊技判定用の数値が判定値と一致するタイミングを外部で推測することがより困難になる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0087

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0087】

定期的な信号にもとづいて定期処理を行うとともに、定期処理の終了後、次の定期処理が行われるまでの期間に繰り返し所定の処理を行うものであり、初期値用数値更新手段が所定の処理で初期値用数値の更新を行うように構成されている場合には、特定遊技判定用の数値の更新の初期値がランダムに変更されるとともに外部から更新状況が把握できず、特定遊技判定用の数値が判定値と一致するタイミングを外部で推測することがさらに困難になる。